

■ 沼津市都市計画マスタープラン・ワークショップ意見概要

(2) 安全・安心のまちづくり (1/2)

	今すぐ出来ること (短期)	少し時間をかけて行うこと (中期：概ね3～5年程度)	時間をかけて行うこと (長期：概ね20年程度)
自助	<ul style="list-style-type: none"> 非常用食料などの備蓄 ・非常食の備蓄 ・非常食を備える 水を備蓄しておく、食など出来る範囲で 家族で3日間しのげる程度の備蓄品の準備 避難グッズを揃える(非常食糧等) 防災グッズの準備 ・避難用具を準備、ケガをした時の処置 防災対策用品の常備 ・防火用品の準備 ・避難用品を揃える 自転車があると便利かも？避難する時 大事なものはまとめて、逃げる時はすぐに持てるようにする 必要なものの用意(ラジオ、ライト、水、食料品) 	緊急物資の備蓄促進	
	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップを持つ ・危険な箇所を知る 地域の防災上の危険箇所点検、避難経路等防災施設の日頃からの確認 避難経路、場所を確認する ・避難所、避難経路の確認 避難場所を知っておく ・避難先を知る(職場等よく過ごす場所) 避難経路確認、被災後の家族との合流方法を確認 家族と待ち合わせ場所を決めておく 町内で安全な所の確保、家族で避難場所を決める 津波の来る方向を知る(海側からとは限らない) 経験を生かせるよう知識を身につける ハザードマップなど情報を認識しておく ・情報の確認 避難場所を確認 ・避難場所の確認 ・避難路の把握 避難経路の確認 ・避難路の把握 ・逃げ道の確保 避難場所を常に頭に入れておく、日頃の生活で逃げ先を確認しておく 高台へ何分で行けるかを把握 ・町内での高いマンションなどの把握 家族での確認(合流場所、避難方法) 海岸沿いの人は特に近くの高台への最短ルートを確認 一刻もはやく高台へ逃げる ・山に逃げる 	災害に係る情報収集、適切な避難行動の理解促進	
	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する意識を常に持つ ・家庭での模擬訓練 防災訓練に参加 ・自主防災会への参加 地域及び会社の避難訓練に積極的に参加する 積極的に防災訓練に参加する 防災訓練、セミナー、レクチャーに参加するなど防災意識を持つ 避難時の心得(自分の身は自分で守る等) 	防災意識の高揚	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家の耐震性能を知る 耐震工事、家具の配置など ・耐震(家具の固定) 家具等倒れないように耐震 ・家具の固定 ・家具の固定、家具の配置 a 1 1 電化、裸火を使用しない ・ガス、電源のスイッチを切る 家具等の転倒防止 	<ul style="list-style-type: none"> 避難路の確保(自身の逃げ道) ブロック塀の耐震化 崩壊(ブロック塀)の防止工事 	<ul style="list-style-type: none"> 家屋の改築 建物耐震化、家具
	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の迅速化(手元にラジオなど) ・情報収集の迅速化(ラジオ等) 	災害時の情報伝達力、収集力の強化	
共助	<ul style="list-style-type: none"> 自治会単位での避難路の整備 		避難所までのルート上の危険箇所の点検
	<ul style="list-style-type: none"> 防災備蓄倉庫の整備(中身の確認) 	緊急物資の備蓄促進	避難路の整備及び安全性向上
	<ul style="list-style-type: none"> 訓練実施 ・避難の仕方、防災訓練はあらゆる被害を想定して行う 崖崩れなどしそうな所の把握 避難路の確認・防災訓練に真剣に取り組む 地域でハザードマップを確認、訓練 ・日頃から防災意識を持ち続ける 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の危険マップ作り(避難経路の確保) 訓練をちゃんとして 	防災訓練の充実・強化
	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の活性化 ・障害者の避難路も考える 助け合い年齢を広げる ・災害弱者(高齢者・子供)への対策(安否確認) 近隣の1人暮らしの方の見回り 援助者の確認 ・弱者への呼び掛け!自分の周辺の人と一緒に 行政と市民の会議 	<ul style="list-style-type: none"> 若者でボランティアグループを作る 地域のネットワークを強化する 	自主防災組織の活性化、災害時要支援者の支援体制整備
	<ul style="list-style-type: none"> 孤立化した場合の役割分担 孤立化した時の避難場所、備蓄倉庫の整理 孤立化した場合の地区住民の役割分担、救急消火・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> 孤立地域対策の促進 建物の耐震工事 	避難場所の安全性向上

〇〇〇：地震対策として出た意見、〇〇〇：津波対策として出た意見、 ：ソフト施策、 ：ハード施策

(2) 安全・安心のまちづくり (2/2)

	今すぐ出来ること (短期)	少し時間をかけて行うこと (中期：概ね3～5年程度)	時間をかけて行うこと (長期：概ね20年程度)	
公助	<ul style="list-style-type: none"> ・分かり易いハザードマップを作る ・定期的に回覧でまわしたり広報で伝えていく ・行政はより多くの防災情報を流す <p>災害に係る情報提供、適切な避難行動の理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に載せる(経路) ・防災の教育を行う ・市民が安心できるわかり易い防災マニュアルの作成 ・東日本大震災等の教訓などをまとめた自主防災に役立つ情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信(本当に起きた時のスピード、ハザードマップ以外のパンフみたいなもの) ・バリアフリーな色づかいのマップ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難生活用食料・機材備蓄 ・避難先への物資の確保(現実に見合った物) ・備蓄品の整備 <p>緊急物資の備蓄促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の適正な整備(誰もが避難し易い) ・避難地、避難路の準備(アウトドア供用とか！) ・避難所の最寄り化 ・逃げ道ルートが見える化 ・逃げ道の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路道整備 ・インフラの整備 ・道を広くする ・地震に強い道路(ガケ・石垣・橋) ・避難路整備内容を地域で決める ・避難ルートが見える化(標識・ペイント等) ・海岸から高台への避難道を整備(高齢者でもOK、夜間でもOK) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練参をうながす ・訓練を行う <p>防災訓練の充実・強化</p>	<p>避難路の整備及び安全性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺に住むお年寄りがすぐ避難できる場所をつくる ・高齢者の方でもスムーズに避難できるようなサポートを充実 ・数多く避難地を作る ・被災者の避難所を確保(耐震化) ・災害後の援助 ・有事の際、地域の物流が断たれてしまう ・多くの人が入れる避難所をつくる ・高い建物をつくる ・避難タワーの増設 ・避難できる安全な場所を増やして欲しい ・避難場所を充実させる ・避難所の数を増やす ・山と海に挟まれた所は山に避難しても土砂崩れの被害に合わないようにする。 ・土砂崩れの防止について整備 	
		<p>避難場所の整備、安全性向上</p>	<p>防潮堤整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策(防波堤を作る) ・防波堤又は堰の建築 ・防波堤の整備 ・防波堤を作る ・堤防または避難道を整備 ・津波防潮堤の整備 ・防波堤の高さまで地面を上げる
	<p>災害リスクに対する自助・共助の取組み支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した建物をそのままにさせない取組み、仕組み ・津波シェルターに補助金を出す ・ブロック塀が多いので無くす 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の改良の援助 	
		<p>地域の災害に対する危険度に応じた総合的な対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重ね合せた被害を公表して総合的な対策をとる 	
	<p>災害リスクに応じた土地利用の規制誘導の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は南の海の方へ、住宅は山の方へ考える(富士市の様に) 		

○○○：地震対策として出た意見、○○○：津波対策として出た意見、■：ソフト施策、■：ハード施策